

「快報 風険消息」は、中国に拠点をお持ちの企業の皆様にお届けするリスク情報誌「中国風険消息」の速報版です。

2021年8月11日

## デルタ型変異ウイルスの感染状況と対策

### デルタ株の関連情報

#### 1. デルタ株の特徴

2020年初めから現在まで、インドで報告された「デルタ株」、イギリスで報告された「アルファ株」、ブラジルで報告された「ガンマ株」、南アフリカで報告された「ベータ株」の4種類の変異ウイルスが、公衆衛生上の脅威となっています。これらの4種類のウイルスは異なる特徴を持っています。

WHO 呼称	学名	発見地	特徴
アルファ	B.1.1.7	イギリス	免疫回避
ベータ	B.1.351	南アフリカ	ワクチン効果低下
ガンマ	P.1	ブラジル	毒性が強い 流行性が弱い
デルタ	B.1.617.2	インド	感染力が高い

(\*情報出典:健康時報 <https://baijiahao.baidu.com/s?id=1704799347517933134&wfr=spider&for=pc>)

世界保健機関(WHO)は7月30日、「新型コロナウイルスによる感染者数・死亡者数は全世界で継続的に増加している。主にこれまでで最も感染力が高い変異ウイルスであるデルタ株によるものだ。」と発表しました。「デルタ株」の感染力の高さは顕著であり、世界中で最も流行する変異ウイルスとなっています(現時点で132ヶ国)。その他の変異ウイルスと比較すると、「デルタ株」には以下の4つの特徴が見られます。

① 感染力が高い	デルタ株は E484Q、L452R、P681R の変異を持っている。L452R はウイルスが細胞に侵入する能力を向上させる。E484Q はウイルスの免疫回避を強化する。P681R についても、ウイルスをより効率的に細胞に侵入させることを可能にする。WHO の研究によると、「アルファ株」に比べて、感染力が約2倍に達するとされている。
② 潜伏期間が短い	従来は潜伏期間が5~6日程度であるが、「デルタ株」は4日ほどである。
③ 治癒後、陰性になるまでの時間が長い	治癒した感染者の PCR 検査結果が陰性に変化するまでの時間が長くなる傾向にある。従来型のウイルスに感染した患者は、治癒後7~9日でPCR検査結果が陰性となるが、「デルタ株」感染者の場合は、平均で13~15日を要している。
④ 症状の悪化が速い	6月14日付けで『柳葉刀』(The Lancet)で発表された研究によると、「アルファ株」の感染者に比べて、「デルタ株」に感染した患者の入院リスクは2.6倍とされている。死亡に至る割合に及ぼす影響については、現時点では明確な研究結果が得られていない。

(\*情報出典:国務院クライアント <https://mp.weixin.qq.com/s/TirBu7e4KS5BIQyK8sAn8A>)

## 2. 感染経路

「デルタ株」は、従来型のコロナウイルスと同様、主に以下の3つの経路を介して感染します。

① 飛沫感染	くしゃみや咳、会話の際の飛沫がウイルスを運び、付近の人に感染する。
② 接触感染	感染者の飛沫に含まれるウイルスは、物体の表面に付着後もしばらくは生存している。第三者がこれらの物体に接触した際に、口、目、鼻などから感染する。
③ エアロゾル感染	感染者がくしゃみや咳をすると、非常に細かい分泌物が空気中に浮遊する。狭い室内空間で第三者がこれらの分泌物を含んだ空気を吸引することにより感染する。朝の飲茶の集まり(広州)、雀荘(揚州)、集団夜会(張家界)、遊覧船(常德)で発生した集団感染は、いずれもエアロゾル感染の可能性はある。

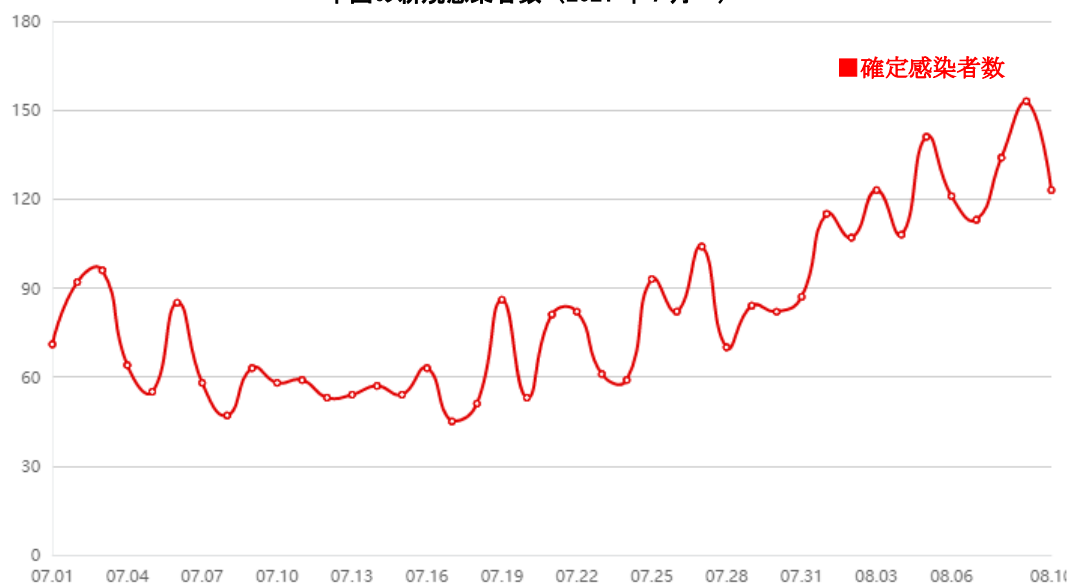
## 3. ラムダ株 (新しい変異ウイルス)

現在、最も注意を要するのは「デルタ株 (B.1.617.2)」ですが、これ以外にも、昨年12月にペルーで発見された「ラムダ株 (C.37)」など、注意を要する必要がある変異ウイルスが多数存在します。「ラムダ株」は、南米大陸を中心に30ヶ国以上で感染が拡大しており、イギリスや日本でも感染者が確認されています。6月14日には、WHOが「ラムダ株」を注目すべき変異ウイルス(variant of interest)の1つに追加しています。「ラムダ株」の特徴については、今後の研究データを待つ必要があります。

### 中国国内の感染状況

8月10日に、中国で新たな市中感染として、83例(江蘇省54例、湖北省14例、河南省7例、湖南省5例、雲南省2例、北京市1例)が確認されました。同日時点での国内感染者数は1060人です。新たな死亡症例はなく、新たな感染疑いに該当する事例も報告されていません。下図を見ると、7月1日以降、中国国内で新規感染者が増加していることが分かります。

中国の新規感染者数 (2021年7月～)



\*グラフの出典: 鳳凰網“全国疫情实时动态” <https://news.ifeng.com/c/special/7tPIDSzDgVk>

現在、中国国内では「デルタ株」による死亡症例は発生していませんが、多くの重症症例が発生していることをふまえると、「デルタ株」が重症化するリスクを高めている可能性があります。

7月31日に、国務院（联防联控机制）が北京で記者会見を行い、南京の重症患者の状況を分析した結果、いくつかの特徴が見られたことを発表しています。「デルタ株の特徴に患者自身の条件が重なった場合には、重症化しやすいこと」が明らかにされています。会見の要旨は以下の2点です。

- ① 南京で確認された患者は全て「デルタ株」によるものであった。
- ② 患者の多くに基礎疾患があった。喘息・気管支拡張症のような呼吸器系疾患、糖尿病・高血圧、複数の基礎疾患を持っている患者も存在した。

(\*情報出典: 国家衛生健康委員会のサイト:<http://www.nhc.gov.cn/xcs/fkdt/202107/7d6894a8006d4cc891e25a4ced5aa27c.shtml>)

## ワクチン

### 1. 既存の中国製ワクチンは「デルタ株」に有効か？

今般の南京での感染症例では、ワクチン接種後の「デルタ株」への感染が確認されています。これにより、ワクチンが「デルタ株」には効果がないのではないかと、という不安も一部見られました。臨床データをふまえると、感染を100%予防できるワクチンはないものの、総合的に見て、既存ワクチンには変異ウイルスによる感染を抑制する効果があるといえそうです。また、これまでの研究・観察によると、既存ワクチンが「デルタ株」への感染を予防する効果は、従来型のウイルスと比較すると低い可能性があるものの、ワクチンを接種していれば、重症化・死亡につながるリスクを大きく低減することができます。

(情報出典: 騰訊新聞: <https://new.qq.com/rain/a/20210801A0AV1G00>)

広州市疾病制御、中山大学、呼吸器疾患の国家重点実験室などの複数の組織から成る共同研究チームは、5月に広州で感染が拡大した際のワクチンの効果について分析しました。これによると、国産ワクチンが「デルタ株」による重症化を抑える効果は100%、中度、軽度、無症状感染を抑える効果はそれぞれ76.9%、67.2%、63.2%でした。

(\*情報出典: 央広網: [http://www.cnr.cn/gd/gstjgd/20210805/t20210805\\_525553272.shtml](http://www.cnr.cn/gd/gstjgd/20210805/t20210805_525553272.shtml))

### 2. 「デルタ株」に対するワクチン開発

8月6日付のシンガポール『聯合早報』ウェブ版の報道によると、中国で最も早く新型コロナウイルスのワクチンを開発・販売した2社(科興控股生物技術有限公司、国薬集団の中国生物社)が「デルタ株」に対するワクチン開発に着手したとされています。このうち科興社については、既に「デルタ株」に対する新しいワクチンの緊急使用申請を提出する予定であるとされています。

また、第一財經の報道によると、科興社は「デルタ株」に加え、「ガンマ株」についても臨床研究や各国の薬事を監督する政府部門への緊急使用申請書の提出を予定しているとのこと。中国生物社も同様に、複数の変異ウイルスに対する不活化ワクチンの開発を進めています。同社は現在、「ベータ株」に対する不活化ワクチンの開発を進めており、「デルタ株」に対する不活化ワクチンの開発も動物実験を実施する段階まで進んでいるとされています。

## 感染防止対策

### 1. 個人の感染防止対策

拡大を続ける「デルタ株」に対しても、従来と同様の感染防止対策が有効です。これまで実施してきたとおり、「マスクを着用する、手洗いを、集会を避ける、対人距離を確保する」といった対策を継続することが重要といえます。また、ワクチンの接種も有効です。

### 2. 企業の感染防止対策

新型コロナウイルスによる感染症の発生から2年近くが経過しました。中国では、時おり散発的に感染が確認されるものの、基本的には適切に制御できている状態と考えられます。一方で、企業としては流行の常態化を防止するため、しっかりと感染防止対策を講じておく必要があります。現時点で考慮すべき事項を、下表に示します。今後の状況に応じ、個々の対応を検討する際にご参考ください。

1	全国各地の「疫情風險等級(感染リスク等級)」を随時把握し、最新情報を継続的に収集する。
2	一定人数以上の会議、会食、旅行は極力行わない。
3	通常の通勤の場合を除き、外出や高速鉄道、飛行機、長距離バスの頻繁な利用を避ける。原則として、中・高リスク地域への往訪は禁止する。やむを得ず往訪する場合は、目的地における防疫対策(検疫や隔離の要否)、居住地における出張後の防疫対策(隔離や核酸検査の要否)を予め確認する。
4	高・中リスク地域が所在する省市から自社への出張・訪問は中止・延期させる。
5	公共交通機関を利用する場合は、マスクを着用する。
6	感染地域が複数にわたるため、無症状感染者や濃厚接触者が市中に紛れ込み、知らない間に接触する可能性も考えられる。自社の社員が、出張や旅行などで公共交通機関を利用した後、右の二次元コード(國務院政府の「同時接触者照会」)をスキャンしておくことにより、濃厚接触のリスクがないかトレースできる。
7	感染者や濃厚接触者が社内にいる可能性がある場合は、政府の指示・要請に従う。当該者およびその他の一般社員に対する社内対応フローを予め定めておく。



#### 参考資料:

- 1、国家卫生健康委員会のサイト([www.nhc.gov.cn](http://www.nhc.gov.cn))
- 2「鳳凰網」、「央広網」、「騰訊新聞」のマスクの記事。
- 3、写真は千図網([www.58pic.com](http://www.58pic.com))の許可を得て使用しています。

以上  
執筆 インターリスク上海 コンサルティング部 高級経理 楊奥

瑛得管理諮詢(上海)は、中国・上海に設立されたMS&ADインシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等へのリスク調査や、BCP策定等の各種リスクコンサルティングサービスを提供させて頂いております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

<お問い合わせ先>

瑛得管理諮詢(上海)有限公司(日本語表記:インターリスク上海)  
上海市浦東新区世紀大道100号 上海環球金融中心34階 T10-2室  
TEL:+86-(0)21-6841-0611(代表)

